

耕作放棄地を活用したサカキの平坦地栽培

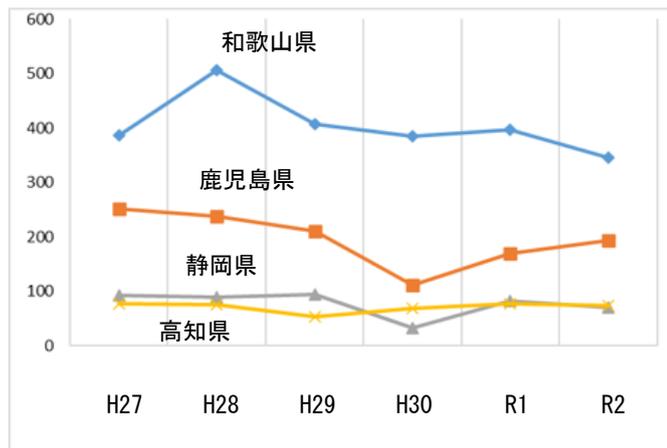
J Aグループ和歌山農業振興センター 技術参与 本田孝志



はじめに

サカキは「ツバキ科」の常緑植物で、スギやヒノキの樹間で生育しているのを良く見かけます。和歌山県は日本一のサカキ生産地で、全国生産量の約40%を占めています。しかし、急傾斜地での生産が多く、高齢化も進んでおり、生産量は近年減少傾向となっています。

生産量
(ト/年)



サカキ生産量の推移

(特用林産物生産統計調査より、ヒサカキを含む)

日高地方での推進協議会の設置

品質が良く、市場での評価の高い本県産サカキの生産を維持するため、「J A紀州」では、県林業試験場や振興局、日高川町などと協力してサカキ等の生産振興を図るための協議会を設置しました。

協議会で検討を重ねた結果、増加している耕作放棄地にサカキを定植し、作業性の良い平坦地でのサカキ栽培に取り組むこととしました。

平坦地栽培では作業の省力化が図られる一方、品質の良いサカキを生産するためには50%程度の遮光が必要となります。

このため、生長の早い植物を植えて日陰を作り、その間にサカキを混植して品質の良いサカキが生産できるように考えました。

当初、生長の早いスギ品種「コウヨウザン」との混植を考えましたが、農地を山林に転用する必要がある等、課題があるため再度検討し、シキミとサカキの混植に取り組み、展示圃場を設置することとしました。

展示圃場の設置

J A担当者等が地元生産者と何回も話し合いを重ねた結果、日高川町内の耕作放棄地に展示圃場を設置することとなりました。

大量の雑草を除去した後、令和4年7月6日に関係者総出でサカキとシキミを定植しました。面積は約4アール、サカキとシキミを併せて120本の苗を植えました。鳥獣害対策用のワイヤーメッシュとネットも設置しました。暑い時期の定植作業でしたが、その後の活着は良好で、順調に生育しています。



定植後のサカキ苗（樹高約70cm）



関係者総出で定植作業（120本の苗木を定植）

今後、展示圃場をさらに拡大するとともに、地域の生産者との交流機会を増やして、作業性の良いサカキの平坦地栽培を推進する計画です。

なお、高品質なサカキを出荷するための課題として、「サカキブチヒメヨコバイ」の防除があります。このヨコバイに吸汁されるとサカキの葉に小さな白斑点が発生し、品質低下の原因となります。農薬メーカーと関係機関が協力し、「ダイリグ粒剤」のサカキで登録を取得しました。適切な防除で安定出荷を行います。

産省から出願公表も行われました。今後、種苗増殖に取り組み、本県特産のサカキブランドにしたいものです。



サカキの有望品種

サカキについて、もう一つ楽しい話題があります。それは、新品種育成の取り組みです。古座川町在住の宮野氏は20年以上かけてサカキの有望系統の選抜に取り組み、「古座川宮野3号」を育成しました。

この品種は、従来のサカキに比べて節間が短く、葉の厚みもあります。平成30年4月に、「JAみくまの」から品種登録申請を行い、すでに農林水

まとめ

和歌山県産のサカキは市場で人気の高い商材ですが、出荷量は減少傾向となっています。今後、収穫作業と荷造り作業の分業化や集出荷体制の強化などについても検討して生産の維持拡大を図り、さらに中山間地域の活性化にもつなげたいものです。